



Thermosolar Gemasolar project in Spain  
Copyright: © Torresol Energy Investments S.A

# 欧州投資銀行（EIB）の気候変動戦略 及びエネルギー融資政策

2015年5月

# 内容

- EIB(欧州投資銀行)と融資オペレーション
- EIBの気候変動戦略
- エネルギー融資政策～低炭素経済に向けて
- 実施：EIBの気候変動への行動

# EIBの概要

- **欧州連合（EU）の金融機関**：EU加盟国によって出資されており、その利害を代表する唯一の金融機関で、他のEU関係機関と密接に協働。
- **主要な金融機関のひとつ**：EIBは **最大規模の多国間借入**及び融資機関として、EUの政策目標を実現するために持続可能な投資事業に対して資金や専門知識を提供。EIBの90%以上の事業は**欧州が対象**だが、**EUの対外開発政策**も支援。

# EIBの概要

**EIBの優先課題**：成長と雇用に特に貢献する事業を支援する。EIBの融資目標は**4つの主要公共政策ゴール**に基づいている。

- イノベーション・人的資本／スキルの追及
- 小規模ビジネスのための金融へのアクセス
- 効果的で戦略的なインフラの構築
- 環境保護と気候変動への行動

## EIBの概要

EIBの活動は3つのプロダクト・ライン（融資・融合・アドバイス）によって運営。

- **融資**: 銀行の中心的な活動で、すべての支援約束額の90%を占めている。
- **融合**: EIBの金融支援と追加的な投資資金を融合させることで、より革新的で洗練された金融手法を提供。
- **アドバイス**: 技術面・金融面の専門知識を提供。

# EIBの概要

最近のEIBの対外方針には以下が含まれる:

- 対象国の拡大
- 欧州自由貿易連合（EFTA）

## •近隣国:

- 中東の近隣国
- EUの東側に位置する近隣国
- 中央アジア

## •開発協力国:

- アフリカ、カリブ海諸国、太平洋諸国（及び海外領土・統治地域）
- 南アフリカ
- アジア及び南米

# EIBの概要

最大300億ユーロを限度とするEUの金融フレームワーク2014-2020に基づくEIBの地域別の支援額は以下の通り:

- 南米: 22億8887万ユーロ;
- アジア: 9億3635万6千ユーロ
- 中央アジア: 1億8206万9千ユーロ

## EIBの戦略文書

- **EIBの環境・社会の原則及び基準に関するステートメント**（2009年）：EIBは、支援するすべての事業における環境・社会の持続可能性の強化を通じて、価値を付加することを目的としている。特に、気候変動、生物多様性、生態系への配慮や社会的側面と融資政策との統合を目指している。
- **気候変動への行動に関するステートメント**（2013年）：気候変動問題に関するEUのリーダーシップを支援するEIBの目標とアプローチを示している。
- **EIBの気候変動戦略案**：現在協議中





## 気候変動への行動の促進

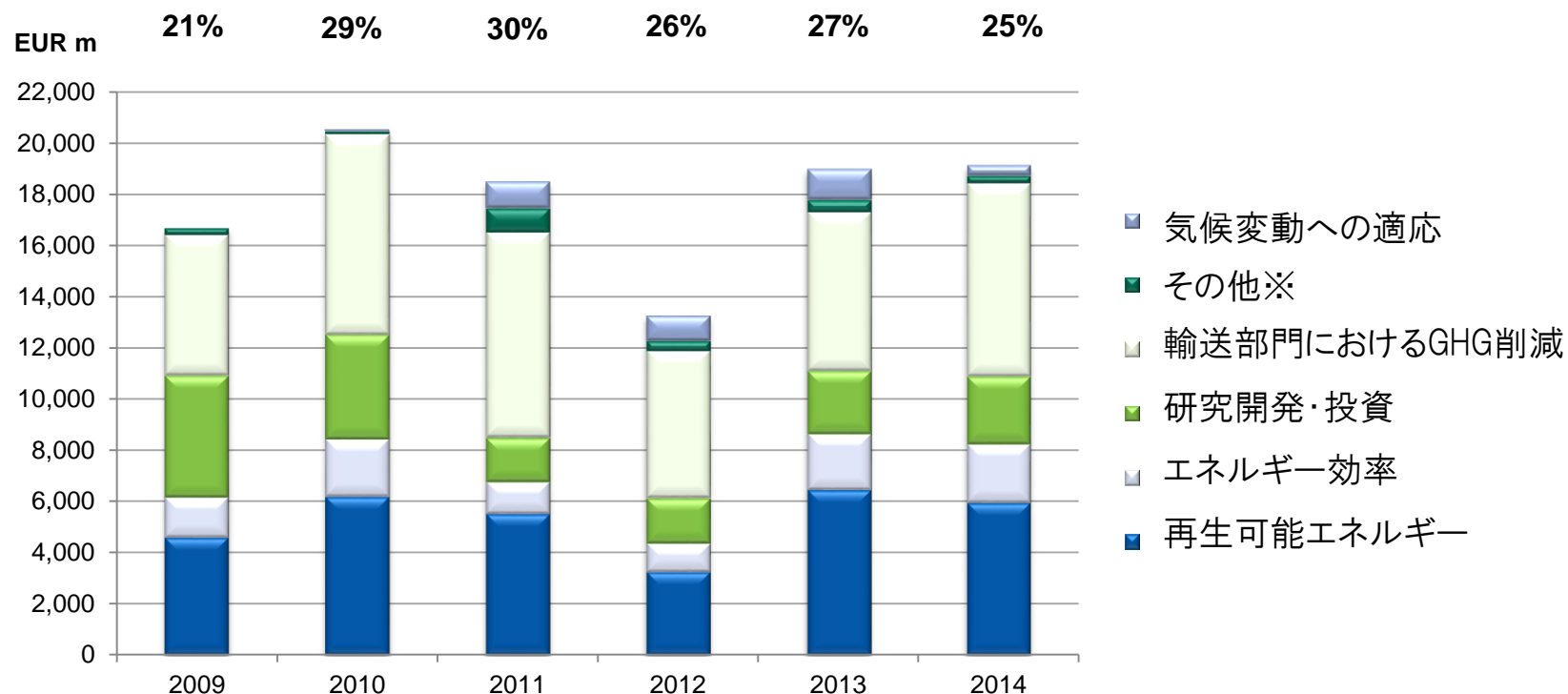
- EIBは気候変動の緩和と適応を**最重要政策課題**に位置付け、そのゴールはEU内外において、低炭素で気候変動に対する回復力を持つ成長を図ること。
- **気候変動への行動**: 年間支援額の少なくとも25%を充てることを約束。
- 投資事業ごとにカーボン・フットプリントの算定と報告を実施（国際金融機関の中で唯一の取り組み）。
- 他の国際金融機関や多国間開発銀行と共に、気候変動への行動を追跡するための**調和アプローチ**。



# 組織業務計画

## 投融资の25%目標の結果の透明性

EIBの気候変動への行動のための融資(約束額)  
(百万ユーロ及び年間総約束額に占める割合)



**2009～2014年における気候変動への行動のための融資約束額：1070億ユーロ**

※植林活動、森林管理、廃棄物・下水処理管理のカテゴリを含む

# 政策の実施状況

EIBの気候変動戦略は3つのレベルによって構成:

- **ポートフォリオ・レベル**: 組織業務計画(COP)において、最低限の割合を25%と設定。

# 政策の実施状況

EIBの気候変動戦略は3つのレベルによって構成:

- **セクター・レベル**: 気候変動戦略は既存のセクター方針の上位に位置するものではないが、セクター政策（エネルギー、交通、水セクター等の融資方針）の改善を促している。対応するセクターの拡大は、徐々に気候変動の配慮の主流化をもたらしている。

# 政策の実施状況

EIBの気候変動戦略は3つのレベルによって構成:

- **プロジェクト・レベルの基準**: 温室効果ガスのフットプリントに関する要件を通じて、気候変動に伴う経済的被害の内部化、エネルギー効率化の機会の明確化、回復力や脆弱性への配慮を実施。

# エネルギー融資基準

**エネルギー融資基準**は2013年に改訂された戦略文書で、EIBのエネルギーセクターにおける優先順位を再定義し、エネルギー事業のスクリーニングと評価における基準を設定。

重要な原則は以下の通り:

- 化石燃料依存を**脱却する**ための再生可能エネルギー
- **効率向上**を通じて、適切なエネルギーを確保し、エネルギー消費を削減
- 化石燃料発電の融資を**限定的にするための基準**

## エネルギー融資基準

化石燃料依存を脱却するための**再生可能エネルギー**:世界レベルで再生可能エネルギー源 (RES) を基礎的な発電エネルギー源として設置。このトレンドは2015年に世界のエネルギー源の第2位を占め、2030年には3分の1を占めることが期待されている。

EIBは幅広いレンジの再生可能エネルギー技術(発電、暖房、冷房、交通等)を支援。これらの技術は異なる開発段階(RDI、初期の商業化、成熟化)にある。異なる経済条件で支援するために、EIBは商業化が証明された技術を成熟カテゴリと発展段階のカテゴリに分けている。



# エネルギー融資基準

- **成熟した技術**：コストが大きく変動することがなく、化石燃料の代替案とのコスト比較が可能な技術（陸上風力、水力、従来の地熱、バイオ発電等）
- **発展段階の再生可能エネルギー**：代替案とのコスト競争力を持っていない再生可能エネルギーに異なる条件が付与される。EIBは合理的な期間の枠組みにおいて競争力を持つと見通しが立つ場合に適用される。例えば、発展段階ではあるが成熟に近い太陽光発電や洋上風力発電等。





# エネルギー融資基準

- **大規模水力**（大規模ダムや貯水池を含む）は安全、環境、社会面での問題が生じることがある。EIBはEU圏外においては、通常、他の国際金融機関と協調融資を行う。これらの事業はEIBの環境・社会基準を満たす必要がある。
- **再生可能な冷暖房**：適切なバイオマス、地熱、太陽熱等の再生可能な冷暖房は、多くの地域で化石燃料の代替案との競争力を持っているが、その拡大は限定的。EIBの支援は限定的だったが、近年は拡大。

# エネルギー融資基準

EU圏外において、EIBは融資基準や気候変動への行動目標に基づいて、再生可能エネルギー源 (RES) の力強い支援を継続する。国連の「万人のための持続可能なエネルギー (SE4all)」イニシアティブに対するEUの対応として、EU圏外の多くの国々において、豊富な再生可能エネルギー源 (太陽熱、水力、地熱、風力等の可能性) が存在することを再認識する。

# エネルギー融資基準

**化石燃料発電**: EIBの気候変動への行動の下で、エネルギー効率向上や再生可能エネルギーへの支援強化がなされた結果、化石燃料発電への融資は減少。2007年に**化石燃料発電**はEIBのエネルギー融資の21%だったが、2012年には6%に減少(2007年から2012年に、天然ガスのコンバインドサイクル発電(CCGTs)への支援は74億ユーロで、化石燃料事業の70%を占める)。

# エネルギー融資基準

化石燃料使用の削減への努力にもかかわらず、世界では、少なくとも短・中期的に化石燃料に依存せざる得ない状況にある。化石燃料の発電への利用を持続可能なエネルギー拡大と両立するために、EIBは**事業スクリーニング基準を強化し**、利用可能な最良技術で、効率的で環境負荷の低い技術に限定。

# エネルギー融資基準

これらの基準は石炭火力発電を除外することになり得るが、いくつかの高効率の石炭火力発電は支援対象になる。例えば、CCSを備えた火力発電設備、炭素中立の燃料源（バイオマス等）や天然ガスのコンバインドサイクル（CCGT）と混合した設備の場合である。

すべての事業はCCS指令や大規模燃焼設備指令、産業排出指令、ETS指令等のEUの規定を満たすことになる。

# エネルギー融資基準

**スクリーニング・評価基準**: EIBが支援するすべての化石燃料発電設備は、

- CO<sub>2</sub>、NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>等の有害な大気排出によるコストを考慮し、**費用便益分析**に基づいて経済性を証明しなければならない。
- gCO<sub>2</sub>/kWhで表記される排出パフォーマンス基準 (EPS) よりも低いCO<sub>2</sub>排出に抑制しなければならない。

# エネルギー融資基準

**排出パフォーマンス基準**：EIBが支援する化石燃料事業に適用される基準で、EUの気候変動・エネルギー政策と整合性を持つ。CO<sub>2</sub>トン/kWhで表記されるカーボンフットプリントのベンチマークで、EUによって定められた総排出目標と整合性を持つ。

EPSの計算の**方法論**と推定排出量はEIBのウェブサイトに公開される。

([http://www.eib.org/attachments/consultations/elp\\_methodology\\_emission\\_performance\\_standard\\_20130624\\_en.pdf](http://www.eib.org/attachments/consultations/elp_methodology_emission_performance_standard_20130624_en.pdf)).



## 政策の実施状況：EIBの気候変動への行動

融資エリアの明確化と  
透明性向上  
融資目標  
(2010年)

EIB融資事業のカーボンフット  
プリントを算出するための  
信用力があり説明可能な方法論  
(2009-2011年)

事業選択と評価  
における  
保守的なしきい値  
(2013年)

Low carbon

GHG排出に基づくEIB融資事業の順位付け

Carbon intensive





# カーボンフットプリントの方法論

- **方法論**は2009年に開発され、公開されている  
[http://www.eib.org/attachments/strategies/eib\\_project\\_carbon\\_footprint\\_methodologies\\_en.pdf](http://www.eib.org/attachments/strategies/eib_project_carbon_footprint_methodologies_en.pdf)
- すべてのセクターにおける適切な事業において、CO<sub>2</sub>-eqで表記され、京都議定書によって規定された将来の温室効果ガス排出量を**事前に評価**。
- 事業運用の開始年を推定。
- 網羅性、整合性、透明性、保守性、バランス、正確性の原則に基づくアプローチ。



## EIBは以下を実施する唯一の国際金融機関

- すべての支援事業のカーボンフットプリントの算定
- 個々の事業レベル及びポートフォリオレベルにおける結果の公開

### プロジェクトレベル

- EIBの情報公開部門やウェブで公開される事業の環境・社会データシート (ESDS) にて公開。
- プロジェクト全体の排出を算定。

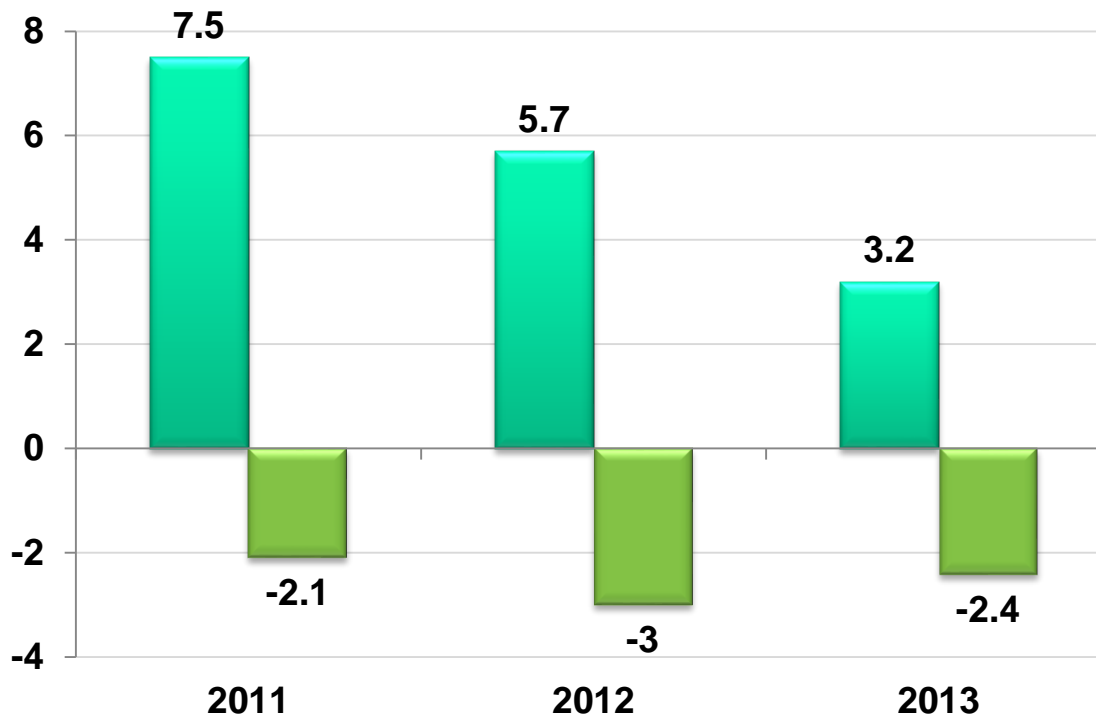
### ポートフォリオレベル

- EIBの監査を受けた年次持続可能性レポートにて公開。
- 実際の事業コストにおけるEIBの融資割合に基づく重み付けで排出量を公開。



# EIBの温室効果：2011-2013年の結果

EIBのカーボンフットプリント：  
EIBの支援事業からの直接排出総量  
(事業コストにおけるEIBの融資割合で重み付け)



相対的な排出量は大きな削減を示している。2011年～2013年に毎年CO<sub>2</sub>換算で2～3百万トンと推定される。

- 絶対排出量 Mt CO<sub>2</sub>-eq/年
- 相対排出量 Mt CO<sub>2</sub>-eq/年

2013 audited annual Sustainability Report: <http://www.eib.org/infocentre/publications/all/sustainability-report-2013.htm>

# 連絡先

ご清聴ありがとうございます。

[relicovs@eib.org](mailto:relicovs@eib.org)

**欧州投資銀行**

100, bd. Konrad Adenauer L-2950 Luxembourg

[www.eib.org](http://www.eib.org)